

金城学院中学校

鈴木 英司先生

中学時代に出会った先生と

バスケットボールがきっかけで教師になられた鈴木先生。

現在は中学のバスケットボール部顧問として、

「目標に向かって努力することで達成感と自信を身につけてほしい」と

練習を通して日々教えていらっしゃいます。

また学年主任として生徒たちの自己判断能力を高める努力も行われるなど、常に生徒の視点に立って、優しく、厳しく指導していらっしゃいます。



生徒たちと共に悩み、喜びを分かち合う
これからそんな教師でありたい。

鈴木英司先生／1984年日本体育大学卒業。1986年に金城学院高等学校の講師に、翌年専任教師となり、1987年から12年間中学校で教鞭を執る。その後1999年から5年間高校へ、2004年より再び中学校で体育を教えるかたわらバスケットボール部の顧問として生徒の指導にあたっている。

中学の恩師との出会いが バスケットと教師の道へ

私が教師をめざすきっかけとなったのは中学1年生のバスケットボール部の顧問の先生との出会いでした。兄がバスケットをやっていた影響で中学からバスケット部に入ったのですが、初心者の私に「フェイントをかける時はこう」「フェイスフェイクはこうやってやるんだ」とわかりやすくユーモアたっぷりに教えてくださり、すぐにバスケットの虜になりました。先生は保健体育の授業担任もされていたのですが、その授業も大変おもしろく、答えがわからなくても先生に当ててもらいたいがためにいつも挙手していたことを昨日のこのように覚えてます。

中学2年の時に名古屋に転校したのですが、その時も先生は「英司をここに置いてほしい」と泣きながら母にお願いをしてくれたそうです。それほどまでに熱心に思い、考え、指導して下さった先生の姿に大きく心を打たれ、「将来は自分も先生のような人になりたい」と思いました。

高校でもバスケット部に入り、その頃から「将来は高校のバスケット部の指導をしたい」と思うようになりました。その夢を抱きつつ東京の大学へ進学、卒業後、金城学院中学・高校の教師となり、念願のバスケット部の監督になることができたのです。

目標達成のために 努力することが自信に

新任当時のバスケット部は1年生が48人いて、部員全員で「3年で県大会、7年で東海大会、10年で全国大会」と誓い合いました。生徒たちは厳しい練習にも耐えて約束どおり県

鈴木先生はどんな人!?

バスケットボール部3年生の皆さんに鈴木先生の印象を伺いました。すると「いつもおもしろいけど部活は厳しい」「厳しく、優しい先生」との声が。また「部活以外のこともいろいろと教えてくれる」「私達のことを一番に考えてくれる」「熱くてもおもしろく、かっこいい先生」など、多岐にわたって生徒たちを優しく見守られていらっしゃる事が伺えました。

大会出場を果たしました。また当時の市内中学110校の中でベスト4にも輝き、大変すばらしい成績を収めました。苦楽をともに練習を頑張った生徒たちとはバスケットを通して絆が深まり、今でも時々みんなでご飯を食べたりして交流を深めています。

今の生徒たちにも自分たちで目標を持って頑張るように指導しています。生徒たちの目標は「カップ戦で1位になりたい」「次の練習試合で勝ちたい」などそれぞれですが、私は「どんな目標でも言葉に出したら責任が生ずるから、それを叶える努力をしないといけない」と指導をしています。目標を達成するのは至難ですが、生徒たちは今、心をひとつにして本当に頑張っています。底抜けに明るい生徒や核となってみんなを引っ張る生徒など、それぞれ個性を持つ生徒がチーム一丸となって厳しい練習にもついてきてくれています。

こうして練習を重ね、試合に勝てればそれが達成感と大きな自信につながり、やがて自分自身への確信にも変わる。そのことを生徒たちに身を持って実感してもらいたいと願い、日々指導にあたっています。

自分で判断し行動する 自己判断能力の高い人へ

学年主任としては今年で8年目を迎えますが、どの学年の生徒たちにもいつも「指示を待つのではなく、その場に即した対応や行動が自ら行える人になってほしい」と話します。例えば学院の朝は礼拝から始まるのですが、1年生にはまず「先生に言われる前に、自分たちで礼拝に



鈴木先生の新任時代
愛知県体育館での活動の様子

行く人になってください。それを3年間続けてください」と話し、生徒たちと約束をします。中学の3年間は子どもから大人へと近づく大切な時期。だからこそ「こうしなさい」と頭ごなしに指導するのではなく、そっと背中を押す、あるいはさりげなくブレーキを踏んであくまでも生徒たちの縁の下の力持ち的存在であるように努めています。今すべきことを自分で正しく判断できる、自己解決能力の高い人になってもらいたいと願っています。

また学年主任になってからは周りの先生方にいろいろと助けていただき、本当にありがたく思っています。この学院の先生方は何事も生徒を中心に考えられる方ばかりで、「できない」とはいわずに「生徒たちのためになることならやろう」と何でも前向きに取り組まれています。こうした良い先生方と一緒に生徒たちを見守っていけるのはとても心強いことです。

教師になって27年。落ち込む時もうれしい時も常にその中心には生徒たちがいます。これからも生徒の気持ちに立って一緒に考え、悩み、共に喜びを分かち合える、そんな教師でいられるように努力していきたいと思っています。

